

幼児たちから学ぶかずかずのこと④

——水色のノートから——

丸山ふみ

夜の幼稚園

幼児たちといっしょに一度は見たいと思っていた西の空が、夕やけで美しくなってきた頃から幼児たちが父や母に連れられてやってきました。

「夏休みに子ども等を喜ばしたるや」というPTA会長の一言が具体化された納涼親子会のことです。

ゆかたを着せてもらった真理子は母親に身体をすりよせて恥ずかしそう、お父さんとペアの半ズボンで嬉しい顔の和也などの顔もすごく新鮮なのです。

地区での子ども会活動が活潑になり、園児も小学生の仲間に入れてもらって催される花火大会や盆踊りに地区担任の先生と一緒に参加する時感じるのですが、幼児の表情が平常幼

稚園で見なれている顔と一味違うのです。

ところが、この宵の幼児達の表情はその時よりも幾倍も生き生きしていて、そのことにまず感動してしまいました。

幼稚園へ十数日ぶりにやってきた幼児達は何を期待しているのか一瞬とまどいましたが、「先生、子どもより大人の方が喜んでるのよ」とくつろいだ表情のお母さん、夜の幼稚園を楽しませてやろうと電気工事を仕事にいられる容子のお父さんが付けてくださった保育室のテラスの沢山の赤、緑、黄、青、白の電球など、幼児を迎える雰囲気や初めての試みに張切っているPTA役員、職員たちの気持が幼児にも伝わっていったと思うことにしました。

フォークダンス、しょうがい節、映画などを親子で楽しみ、帰りに「お楽しみ袋」をもらおうという大人の企画したブ

プログラム以外に幼児達が楽しんだのは暗闇でした。

月の出のおそい夜だったので、二基の投光器と、絵本『モチの木』の豆太のみた木のようにと願って付けていただいた五色の電球のとどかない場所で動きまわる幼児の姿に、自分の幼い日を重ねて今夜のことはそれぞれの幼児の思い出になるのではないかと思いました。

スベリ台の上から懐中電燈で友達に合図をおくっている明宏や自分達だけでは少々怖いのか、園舎の裏へ小学生のお兄ちゃん達と探検にいき、「先生、お化けおらへんよ」と得意そうに報告している浩樹をきまり悪げに傍に立ってみている小学生も含めて、暗いということが遊びをつくってくれました。

「先生もいこや」と文子に誘われて私も暗い場所へついて行きました。母親から借りた懐中電燈を手に、足早に歩きながら文子のおしゃべりはつづきます。後から私がついてくるのを確かめるように返事を待つような言葉がつづくのです。

暗闇を歩きながら私も経験したのは靴の底に伝わるさまざまな感覚でした。ゆかたを着ているのに、サッサと歩いてい

ける文子の足元を見て意外に思ったのは運動靴を履いているです。

幼児の足元

舗装された道路ばかりを歩いてくる幼児達のためにと、門の付近には小石を、園舎のまわりには砂利を敷き、五月後半からは砂遊び場では素足か、ビーチサンダルを使わして幼児達の足の裏にいろんな経験をさせているのです。

この夜も夜露に濡れた草の上や暗いから凹凸のみえない園庭を歩くことを幼児が経験したのですが、舗装された道路を歩くのちがって土の上を歩くということは、土が幼児の足を受けとめてくれ、その硬さや柔さが幼児の足に何かを学ばせてくれるように思われてなりません。

ぬかるみに足をとられて困るということが幼児の足元から無くなった今の生活、歩きなれない履物では交通量の多い道路が危いという親心が、ゆかたに運動靴ということになる幼児の生活の中へ、二学期の幼児の活動の計画に新しい課題が生まれました。

(松阪市立松江幼稚園)